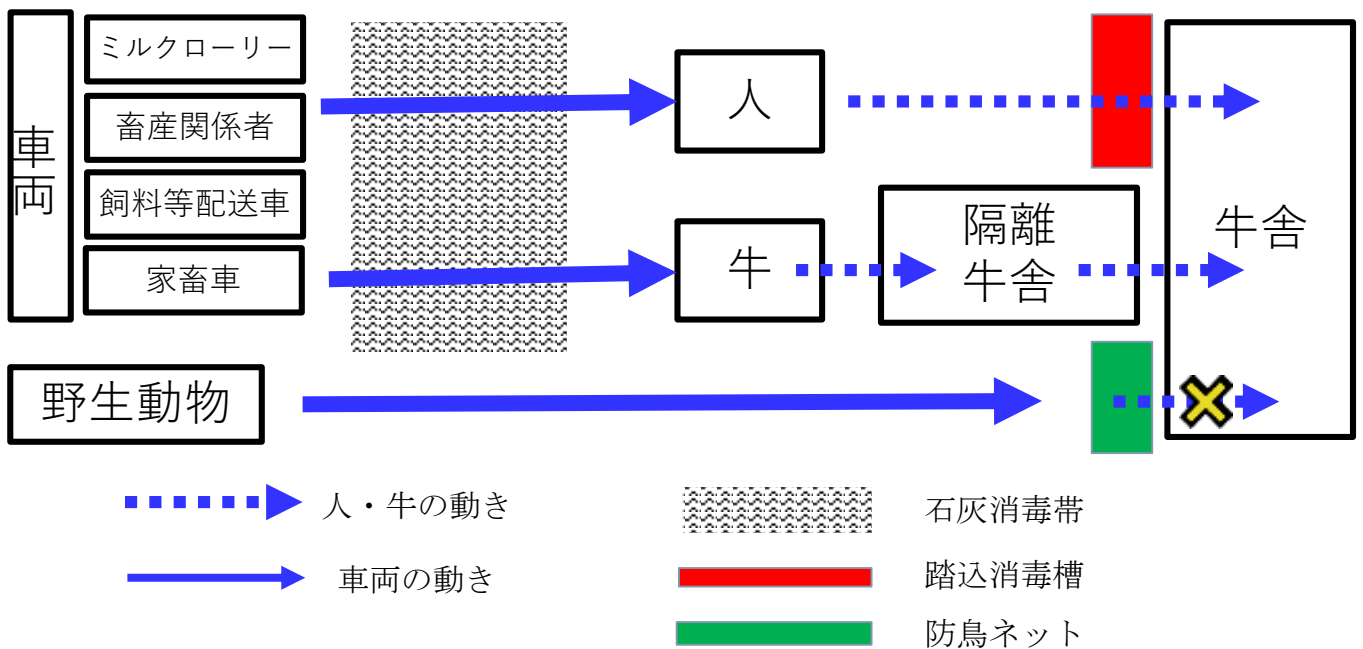


II 農場内への侵入防止

I 病原菌を持ち込まない～農場を守る方法 教えます

✓ 農場を守る4箇条（農場内に入ったりする時のルール）

- 1) 車両は、必ず石灰消毒帯を通る
- 2) 人は、踏込消毒槽を通る
- 3) 牛は、隔離牛舎を経て牛群に入る
- 4) 野生動物は、防鳥ネットや環境整備で侵入を防止する



2 病原菌を持ち込まない 対策① ～ 石灰消毒帯の設置

農場に入ったりする車両の消毒を実施し、外部からの侵入を防ぎます。農場に入ったりする車両の動線を確認し、石灰消毒帯を設置します。

- ① 散布面積：幅 3 m、長さ 4 m
- ② 石灰の散布量：0.5～1 kg/m²
地面の表面がムラなく白くなる程度の石灰を散布し、ホウキ等で均一に広げる。
- ③ 他の消毒薬を混ぜて使わない。
- ④ 1 週間を目安に定期的に散布する。
- ⑤ 散布時は、直接、皮膚・口・呼吸器等に付着しないよう、マスク、メガネ（ゴーグル）ゴム手袋等を着用すること。



3 病原菌を持ち込まない 対策② ～ 作業衣と踏込消毒槽

専用の作業服・長靴の準備

専用の作業服・長靴を準備しておくことで外部からの病原体を持ち込む機会が減少し、病原体の侵入防止になる。

牛舎専用の作業服・長靴を準備

特に、病原菌に弱い牛を扱う牛舎に入るときには、専用の長靴や作業服を用意して履き替えるか、洗浄・消毒の徹底することが必要

外来者用の作業服・長靴を準備

獣医師やメーカー等、頻繁に出入りする外来者に対して専用の長靴を準備することは外部からの病原体侵入を防止する対策となる

踏込消毒槽の設置

牛舎の入り口に消毒槽を設置し牛舎に出入りする際に長靴を消毒しましょう。

①消毒薬は汚れたらすぐに交換する

消毒液の中に有機物（糞尿等）が入ると、消毒効果がおちるので液が汚れたら速やかに交換する

②消毒薬は適正な濃度で使用する

踏込消毒槽に使用される代表的な薬剤等

種類	製品名	希釈倍率
逆性石けん	ロンテクト	500倍
	アストップ	500倍
塩素系	クレンテ	300～400倍
	アンテック [®] ルコンS	100倍
オルソ剤	トライキル	100～200倍
アルカリ系	消石灰	※塩素系との併用不可

4 病原菌を持ち込まない 対策③～導入牛の隔離・観察

導入牛は、3週間別飼いするのがベストです。注意深く観察し、健康に異常が無いことを確認してから牛群に移動します。育成牧場から下牧した牛についても同様です。



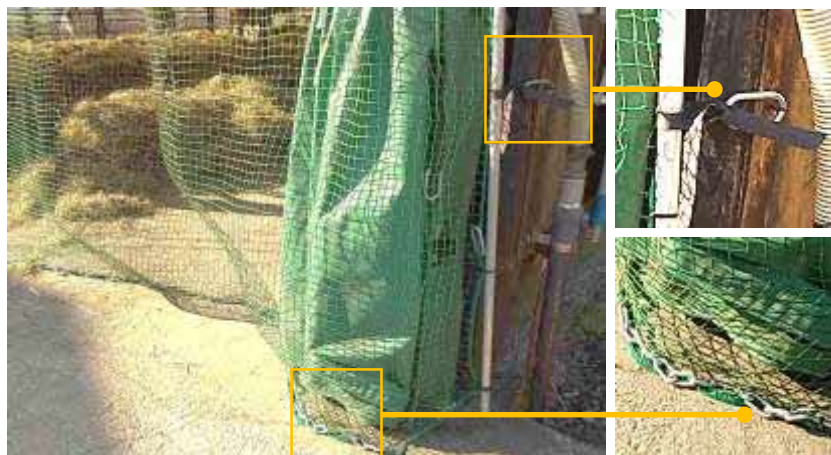
しかし、実際には専用の隔離牛舎を持っている農場は少なく、別飼いすること自体が難しいかもしれません。

導入牛を旧牛舎で1頭おきに繋留する、他の牛と接触しないように独房で管理する、パドックの一部を区切るなど、既存の施設を利用してみてはいかがでしょうか。



カラス・ハト・スズメなどの野鳥や、ネズミ・キツネといったよく見かける野生動物は、乳牛の生活環境に病原菌を持ち込みます。畜舎への侵入や接近を積極的に防ぎましょう。

防鳥ネット(侵入させない)

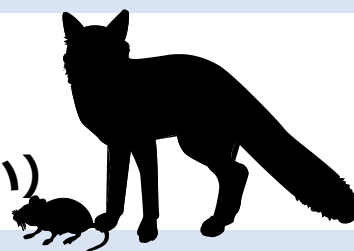


- ・吊り下げ式で、カーテンのように牛舎の端から端まで開閉可能
- ・ネットの両端をアルミのポールで支持。柱の釘にカラビナをかけて隙間が出来ないように閉じる
- ・ネットのすその鎖が重りとなり、めくれ上がらない



- ・パイプの枠と防鳥ネットを結束バンドで組み合わせ、既存のゲートに固定した事例(写真左)
- ・新築牛舎のスライド扉全面を防鳥ネット張りにした事例(写真右)

畜舎内外の環境整備 (接近させない・誘引しない)



- ・畜舎周辺の草刈り、不要物撤去
野生動物が身を隠す場所をなくす
- ・畜舎内の清掃と胎盤処理
野生動物が好むものを放置しない

